

「私の第一声⑰」

【初任者の時に出会った子どもたちの生徒会執行部キャンペーン】

私が初任者として採用された頃は、教員の世界は就職氷河期で、採用人数が極端に少ない時期でした。この年、貝塚市に採用された中学校の教員は、英語の女性の方と国語の私の2人だけでした。その2人が初任者として一緒に学校に赴任したのですが、この学校に初任者が来たのは6年ぶりだということで、若い先生は少なく、一番年齢の近い先輩でも6才上の現第五中学校の宮瀧校長でした。初年度から中学校2年生の国語の授業と学級担任、他にも、2年生の生徒会執行部の副担当、美化委員会の主担当をさせてもらいましたが、年の離れた先輩が多いということは、私にとってはとても幸運なことで、様々な分野について、いろいろな角度から教えてもらうことができました。

1980年代に全国的に吹き荒れた校内暴力の状況は、私の赴任した90年代半ばには沈静化しつつありましたが、当時の中学校には、まだ、荒れた雰囲気が残っていました。私が赴任した年に、生徒会執行部が取り組んだキャンペーンのテーマは「トイレにトイレットペーパーをつけよう」でした。学校のトイレという場所は、子どもの心の状況が現れます。子どもたちが荒れているとトイレも荒れるのです。しかも当時の学校のトイレは、個室は和式しかないし、扉の上下も大きく隙間が空いていて、覗かれる心配もありました。子どもたちが快適に過ごす施設として、十分ではなかったと思いますし、今でもそんな状況の学校もまだまだあると思います。

当時、その学校ではトイレットペーパーを個室の中につけておくと、それを外して遊んだり、トイレに突っ込んで詰まらせたりする事件が起こるような状況でした。そこでやむを得ず、生徒も教職員も、みんなポケットティッシュを持っていました（当時の学校には職員トイレのないところも多く、生徒と同じトイレをつかっていました）。

生徒会執行部の願いは、「安心してみんなが過ごせる学校にしたい」であり、そのための方法の1つが、みんなにとって役に立つように、すべての個室にトイレットペーパーをつけて、それを大切に使う学校にしていくキャンペーンだったのです。当時の生徒会執行部の生徒は、

アピールのためのポスターや劇をつくり、全校集会でうったえるなど、懸命に取り組みました。結果、トイレットペーパーを全個室に設置することができました。生徒たちは、その後も次々と学校をよくしていくキャンペーンを続け、全校生徒を巻き込んで取組みを進めていきました。この時、どんどん成長していく生徒自身の姿とともに、生徒たちが力を発揮できるように支え、その思いを実現させていく取組みとともに作っている先輩教職員の姿から多くを学びました。

今、多くの学校のトイレは、美しく清潔なものになりましたが、これは、ここ数年のごく最近のことです。三中でも、おそらく、同じように生徒達や教職員が一緒になって取り組んで、学校文化を作ってきた歴史があると思います。

昨年度、三中では生徒会や各委員会、各クラスの議員が様々な取組みやキャンペーンをして、校則の靴の規定を改定してくれました。すべての生徒を大切にするために、何度もアンケートをしたり、署名運動をしたり、少数意見を切り捨てず、時間をかけて合意形成してくれた見事な取組みでした。昨年その運動の中で生徒のつぶやいた「ほんまに、私らで、ルールを変えられるんや」という言葉に、これらの取組みの重要性を感じます。世の中は自分たちが創っているのだという実感があれば、自分の人生の主人公として主体的に生きる意欲を持つ生徒が増えていくのではないかと感じています。

今年もすでに各学年で、時間を守るキャンペーンや、制服をきちんと着こなすキャンペーンなどを進めています。今後、全校での美化活動にも取り組めます。また、新たに配置された栄養職員の力も借りながら、SDGsの食育、給食残渣減少キャンペーンなども予定しています。時代とともに取り組む内容も多様化しています。

これからも生徒と教職員、地域の方々、そして教育委員会と一緒に、子どもたちの快適な居場所となる学校を、子どもたち自らが創っていくとする流れを大切にしていきますので、ご協力をお願いします。

【不定期コラムNo.30】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP



貝塚第三中学校HP